

一般質問

■新型コロナウイルスに関するワクチン接種、感染急増する未成年者・児童への対策について
コロナ禍が続くことによる親子の心の負担の解消を！

質

コロナ禍により子どもたちの日常活動に制限がかかっている。児童の成長期における心理的影響や、職場を休んで家庭の対応を行う親御さんや専業主婦などのママさんの心の負担に強い懸念がある。子どもや保護者への心の負担をどのように考えているか聞く。

また、このような心の負担を抱えている中、感染者数が落ち着き、親子で外出しようにも、七尾市内には親子で天気や気温を気にせず、長時間滞在し楽しむことができる施設がそもそも少ない。親子が安心して楽しめる「屋内公園型施設」の整備が必要ではないか。

答

感染者には、適切な治療のうえ、しっかりと社会復帰できるように支援する。自宅療養者には能登中部保健センターによる健康状況の観察や相談対応が行われている。

学校や保育園では、感染した児童・生徒が安心して療養できるように、定期的な状況確認と療養中における学校や保育園の情報の提供、登校や登園を再開する際には、普段どおりの受入れができるよう配慮している。

また、アフターコロナを見据えて、子供たちが、地域において、安心・安全に伸びやかに暮らせるように、地域で子供たちを見守る体制をとることや、親子が安心して利用できるように、既存施設の充実に努めていきたい。



山崎 智之 議員 (灘会)



一般質問

■子どもは宝、コミュニティ・スクールで人づくり、まちづくりについて

コミュニティスクールを導入せよ！

質

近年、学校だけでは解決できない課題が多く、学校の問題は地域の問題と捉え、学校と地域が連携・協働して地域ぐるみで解決していくことが必要である。

そこで、保護者・地域の方にも一定の責任と権限を与え、当事者意識を持ってもらい、学校運営に参加する学校運営協議会を設置し、地域総がかりで子どもの成長を支えるコミュニティスクールが必要だと考えるが、七尾市も導入してはいいかが。

コミュニティスクールとは

学校と保護者や地域のみならず、ともに知恵を出し合い、学校運営に反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み。

答

コミュニティスクールは、今まで以上にPTAや地域住民が学校教育に参画し、地域全体で責任を持つて子どもの教育に携わることを目指す取り組みとして法改正されたと理解している。現在、各学校は地域・保護者と連携し、地域・保護者からも学校に対して協力的な力添えをいただいている。

学校として今以上に、地域や保護者の力を借りたいという思いと、一方で、地域・保護者として学校の運営に協力したいという思いが湧き起こり、双方から学校運営協議会の設置を求める声が上がってくれば、前向きに検討する。



瀬戸 三代 議員 (あすなろ)



一般質問

■ふるさと納税への取り組みについて
前澤氏とのご縁をさらに大きなものに！

質

七尾市は、昨年、ZOZOTOWNの創始者で株式会社スタートトゥデイ代表取締役社長の前澤友作氏が「Writer（ツイッター）」で募集したふるさと納税の納税先に出選され、500万円の寄付をいただいた。

前澤氏は、七尾市ゆかりの長谷川等伯の作品「烏鷺図屏風」を収蔵しており、七尾市との深いご縁と前澤氏とのコラボにより大きな効果が生まれることを感じた。これを機会として、大きなご縁となるよう働きかけてはいいかが。

答

前澤氏からのふるさと納税は、観光振興に活用することを条件に納税を希望する自治体の募集があり、七尾市も応募したところ、500万円の寄付をいただいたもので、令和4年度の観光振興事業に活用する。

前澤氏は、七尾市を生誕の地とする長谷川等伯の「烏鷺図屏風」を収蔵しており、七尾市としてもご縁を感じており、ふるさと納税へのお礼を申し上げ、しっかりとした関係を築けないかと考えているところである。

烏鷺図屏風 (うるずびょうぶ)

安土桃山時代から江戸初期にかけて活躍した絵師・長谷川等伯の作品で、六曲一双、各幅 354 cmの大画面に、飛び交うカラスと羽を休める白サギの群れが、水墨画の流麗なタッチで対照的に描かれている。



中西 庸介 議員 (新政会)



七尾駅前広場の長谷川等伯像